

2020年度 特別研究推進費実績報告書

2021年 5月 6日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 基盤教育センター・名誉教授  
(氏名) 小林 道彦

2020年度に交付を受けた特別研究推進費に係る研究実績について、  
次のとおり報告します。

研究課題名	西南戦争に関する山縣有朋・乃木希典関係史料の調査と翻刻					
実施内容・研究成果の要旨 (概要書を別途添付)	<p>本研究は、陸上自衛隊小倉駐屯地史料館及び防衛省防衛研究所（東京都新宿区市ヶ谷）所蔵史料の中から、小倉に所縁の深い乃木希典（歩兵第14連隊長）と山縣有朋（征討監軍）関係の西南戦争期の史料を探索・収集し、そのデータを解読・翻刻することを目的とする。まず、駐屯地史料館所蔵の「明治十年役戦闘日誌」をお借りして調査した結果、該史料は日本史籍協会編『熊本鎮台戦闘日誌』（東大出版会から刊行済み）の下書きであることが判明した。よって翻刻は取り止めたが、史料の破損がひどいので、専門の修復業者を小倉駐屯地史料館にご紹介した（〒181-0002東京都三鷹市牟礼4-22-16、紙資料修復工房）。修復は自衛隊の予算で行うことになっており、現在予算措置が講ぜられるのを待機している状態である。防衛省防衛研究所図書館所蔵「出征第一旅団戦記」は第14聯隊を隷下に収めた第一旅団の西南戦記草案であり、完成版が国立国会図書館古典籍資料室所蔵『西南戦記』であることが調査の結果判明した。そこで帙入り全4冊を全文デジタル撮影し、奈良岡聰智京大法学部教授の監督・指導の下に、同大学法学部4年生（現大学院生）落合拓磨君に翻刻作業を委託した。作業は完了し翻刻データも出来上がっているため、校閲を加え解題を付して今年度の『北九州市立大学基盤教育センター紀要』に全文「史料紹介」として掲載する計画である。なお、山縣有朋意見書関係文書の調査を小林・奈良岡の両名で行なった（小林は東京、別途支弁。奈良岡は東京、熊本と鹿児島）。その結果、古典籍資料室所蔵『西南戦記』の史料的位置づけも明確となったので、それらの知見は上記「解題」に反映させる予定である。新型コロナウイルス感染拡大のため、当初予定していた防衛研究所での調査はやや不十分な嫌いはあるが、国会図書館古典籍資料室での調査では十分な成果を上げることができた。なお、同志社大学助教松本浩延君は体調不良のため、今回の出張調査には参加できなかった。</p>					
	合計	使用内訳（単位：円）				
交付決定額	562,436	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
支出額	398,355	0	1,909	121,499	60,577	214,370
執行残額	164,081					
共同研究者	所属・職名	氏名		役割分担等		
	京都大学法学部・教授	奈良岡聰智		史料調査と史料翻刻管理		
	同志社大学法学部・助教	松本浩延		データ管理上の助言		